

科目名(英文表記)	地域経済・経営Ⅲ（北海道経済の課題） (Regional Economy and Management Ⅲ)													
科目区分	基礎科目	単位数	2 単位											
担当教員名	下川 哲央(特認名誉教授、非常勤講師)	ナンバリング	MBA_C_EM 6231											
E-Mail	shimo5811@jcom.home.ne.jp、 te-shimokawa@ezweb.ne.jp													
授業の内容及び方法：次頁以降に記載														
<p>・授業の目的：</p> <p>北海道と主要府県間、地域内自治体間の「経済力格差」が目立っています。本講は、北海道をベンチマークに地域経済の課題や「自立」の捕え方、ビジネス戦略との関連について学修する「地域研究」です。</p> <p>データ分析により可視化した現状を確認し、地域がその地域や国境を越える経済取引（域際、国際）で獲得する所得の仕組みや構造、理論を通じ、MBAスキルとのクロス・ファンクショナルな融合により地域活性化に寄与できる実学を身につけます。地域経済活性化のカギは、とくに地域外取引の多寡、そこに関係する産業構造、企業の経営革新や技術力、資本投資、労働生産性、人材などの諸要素が深く関係します。</p> <p>・到達目標： 次の2つの括りで設定します。</p> <p>M1～6では、地域経済の基礎理論や分析ツールを用いたマクロ/ミクロ的な構造問題とその評価を学習し、「自立・活性化」の具体的な意味、formulaを学修していきます。また、そうした知識を基礎に地域ビジネスの仮想演習を通じ、履修生自身が活性化につながるformulaを練り込み、地域発「構造改革」を牽引する戦略的思考を身につけます。</p> <p>M7～8では、上記の知見も活用し、本道企業が平均して苦手とする国際取引の利益を地域経済に取り込むため、中国のビジネスケースを事例に海外との取引や戦略的視点から課題に向き合います。加速する貿易・投資自由化の流れを前向きに捉え、ケースに潜むチャンスとリスク、MBA的解釈・解法等を通じてMBAホルダーとしての能力向上を目指します。</p>														
使用教材： <ul style="list-style-type: none"> 担当教員執筆の「概説版『北海道経済アーカイブと論点』」を事前配布する他、各Moduleは担当教員作成の教材を用いる。必要に応じ他の統計・調査資料もModule毎に適時配布する。 														
成績評価の方法： <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>評価の要素</th> <th>ウエイト (%)</th> <th rowspan="5">(注) 詳細はオリエンテーションで説明する。 評価に不服ある場合は、 不服申立書をもって教務 委員長へ申し出ること。</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>出席率 (6 モジュール以上で単位認定)</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>授業への参加度 (質疑・討論等の評価)</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>ホームワーク (事前・事後の課題レポート)</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>最終課題レポート</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table>				評価の要素	ウエイト (%)	(注) 詳細はオリエンテーションで説明する。 評価に不服ある場合は、 不服申立書をもって教務 委員長へ申し出ること。	出席率 (6 モジュール以上で単位認定)	10	授業への参加度 (質疑・討論等の評価)	20	ホームワーク (事前・事後の課題レポート)	40	最終課題レポート	30
評価の要素	ウエイト (%)	(注) 詳細はオリエンテーションで説明する。 評価に不服ある場合は、 不服申立書をもって教務 委員長へ申し出ること。												
出席率 (6 モジュール以上で単位認定)	10													
授業への参加度 (質疑・討論等の評価)	20													
ホームワーク (事前・事後の課題レポート)	40													
最終課題レポート	30													
履修上の注意事項： <ul style="list-style-type: none"> 履修願登録前の3月下旬に科目独自の「履修仮登録」と「事前アンケートの提出」をお願いします。なお履修仮登録は、正規の「履修願」での変更を妨げるものではありません。 各Moduleでは、学修深度を確認する「事前・事後課題」の提出とその評価を重視します。 モジュール途中での履修取消しが生じないよう、履修計画の的確な吟味を願います。 														

授業の内容及び方法

モジュール 1 地域経済を理解する基本的インプリケーションと理論ツール	
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ・3月下旬に履修仮登録者へ事前アンケートを行います。 ・4月初めに「(概説版)北海道の経済と課題～北海道経済アーカイブと論点」を参考資料として配布し、授業の前提としての基本的知識の均霑を図ります。
第 1 時 限	Introductionとレクチャー(1)
	<ul style="list-style-type: none"> ● オリエンテーション：科目の意義、目標、進め方、成績評価法、その他の注意点 ● レクチャー(1)【緒論】：近年の日本経済と都道府県の比較から北海道経済を巡る諸問題を捉え、地域格差の実相、経済成長力生成の基本的formulaについて <基本理解①>
第 2 時 限	グループ討議と発表 (注) グループ討議のテーマ、発表方法は都度、指示する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・事前アンケート(基本認識)やレクチャー(1)を踏まえ、北海道経済の課題についての理解進化をグループ討議で整理⇒「自立」の意味・意義を吟味する出発点とする。
復 習 (事後課題)	事後課題レポートの提出

モジュール 2 北海道経済の構造的特質～「自立」の意義の再考に向けて	
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ● M1後に配布する資料から、課題を事前レポートする。
第 3 時 限	レクチャー(2) 道民経済計算の基本と所得の流出入、地域経済「自立」のcontext <基本理解②>
	<ul style="list-style-type: none"> ● 県民経済計算の知識<総生産と純生産、生産・分配・支出の関係、それらの構造的特徴など> ● 県内主義と県民主義による発生所得の捉え方 ● 道民可処分所得はなぜ道内生産所得を超えうるのか(道外勘定(経常取引)から判明する知見) ● 一人当たり県民所得の格差と因果 ― 域際収支と地域経済循環率の視点
第 4 時 限	「国民経済計算(SNA)」に基づくグループ演習と発表、事後解説
	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域経済「自立」の基本的contextを具体的に確認していく。
復 習 (事後課題)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事後課題(簡易ドリルと理解度レポート)の提出 ・ M4～5で学修する教材(課題資料1,2)を予め配布するので、余裕を持って読んでおくこと。

モジュール 3 北海道経済「自立」の視座	
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ● 「産業連関表の基本」に関する事前配布資料を読んで出席すること。
第 5 時 限	レクチャー(3) 地域経済「自立」のcontextの掘り下げ <基本理解③>
	<ul style="list-style-type: none"> ● マクロ経済バランスから見た域際収支・財政純受益・県民所得の関係 ● 地域経済循環分析と「自立度」の把握、「地域内乗数効果」の意味と計算方法 ● 産業連関分析のデータ分析と「生産波及効果」、「地域生産所得の漏れ」の把握など
第 6 時 限	グループ演習(討論)と発表、解説
復 習 (事後課題)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事後課題レポート(産業連関モデルによる簡易演習ドリル)の提出 ・ M4-M5に関する留意点の事前伝達

モジュール4 北海道経済「自立」の視座 <基本理解④>	
事前準備	● M1で事前配布の解析資料『体格・筋力・活動力』(課題資料1)により、北海道経済に関して可視化されたもの、地域「特性」形成の要素、などを考察しておく。
第7時限	グループ討議と発表
	● 事前準備に沿った考察を踏まえ、地域経済「自立」の意義の練り込みに何が必要か、またどのような定量指標/定性指標等で測るのが適当か
第8時限	レクチャー(4): 討論課題へのコメント、「自立」のcontextの掘り下げ
	● 解析資料が示す課題からの理論的示唆(集積や産地形成、生産性とイノベーションの関係など)について地域経済学的なformulaへの理解を深める。
復習 (事後課題)	・事後課題レポートの提出 ・M5事前課題の指示

モジュール5 自立に貢献するビジネス等の戦略的Architecture (その1)	
事前準備	●モジュール4までの学修成果と『北海道値』の考え方により、市場競争力と地域経済「自立」に貢献できるビジネス等 ^(注) の仕組みを演習する。 ① 事前配布の(課題資料2)を読み、②履修者が関心を持つビジネス等を事前申告し、 ③ 北海道値の分析対象に採択されたものをM6での成果品として準備する (注) ここで「ビジネス等」とは、ビジネス・産業・プロジェクト等の活動を包括する略称。
第9時限	レクチャー(5): 地域経済「自立」のアプローチ、自立の構図など
	● 「北海道値」を練り込むポイント、経済・経営的に考慮するべき視点など
第10時限	・各自のビジネス等の「北海道値」提案(事前課題5-1:1次案)の発表と討論
	● 「北海道値」の適切な設計と北海道経済「自立」に貢献できるformulaの可視化 ● 新たな価値特性の形成と地域経済構造の「自立の芽を育てる」可能性を高める「戦略」へ
復習 (事後課題)	・事後課題として1次案発表討議と同僚によるディスカッション講評を踏まえた2次作品の作成・提出(事前課題5-2)

モジュール6 自立に貢献するビジネス等の戦略的Architecture (その2)	
事前準備	・M5事後課題(事前課題5-2:2次案PPT)
第11時限	・事前課題5-2の要点発表とコメント
	● 地域経済「自立」のアプローチ・構図などの評価
第12時限	・まとめのレクチャー(6)
	● 効果的な「北海道値」の設計と地域経済「自立」のformulaとの融和性(活性化の可視化) ● 「漏れの防止」「乗数効果」の視点、「生産性とイノベーションの関係性」など
復習 (事後課題)	・各自の「北海道値」判定と「戦略」について、学修で得た新たな「気付き要素」をレポートする。

モジュール7		北海道と海外アプローチ<アウェイ市場戦略> (1) 概説、北海道の海外進出ビジネスの状況
事前準備	M6で事前に配布する(ケース資料Ⅰ)「道内企業の中国進出状況(事例調査)」に基づく課題考察と事前レポート。	
第13時限	・ レクチャー(7)	
● 北海道の地域戦略における海外(北東アジア)アプローチと戦略上の意義・目的		
第14時限	・ 事前課題レポートによる論点をグループごとに整理・発表	
● 道内企業の中国進出事例から考察できる課題と戦略的論点の抽出(海外市場戦略の事例として)		
復習 (事後課題)	・ 授業を通じた学びと論点整理のレポート	

モジュール8		(2) 海外ビジネスケース<MBA的解釈、チャンスとリスクのマネジメント>
事前準備	中国ビジネスから学ぶ戦略(その2)～ 事前配布する日本企業の中国でのビジネスケース(ケース資料Ⅱ)によりカテゴリ毎にMBA的解釈・解法を考察し、事前レポートする。	
第15時限	事前課題のビジネスケースの考察結果を討議し、グループ発表。考察する観点はM7で指示する。	
● 各ケースについてMBA的解釈・解法により考察、論点を整理		
第16時限	レクチャー(8): 課題のポイント、インプリケーションの学修	
● 各ケースの解釈とMBA的解法のまとめ ● 中国ビジネスにおけるチャンスとリスクを通じて「海外ビジネスでの共通課題」を学修 ● 地域経済活性化のformulaとの関係性		
復習 (事後課題)	・ M8事後課題レポートの提出	
● 最終課題: 科目の学修成果を確認する最終課題レポートを、指示に従って提出する。		